外国語科の研究について

安彦　有里恵

外国語科が目指す「子供が学びをつくる姿」

詳しくは目指す子供の姿シートへ

これまでの２年間の研究を生かし，今年度外国語科では「子供が学びをつくる」姿を下記のように設定しました。また，この姿を実現するための支援を整理しました。

【課題設定】

子供の姿　単元のゴールにむけて学習の目標を教師と児童が共有し，自分のことや日常生活に関する身近で簡単な事柄について，コミュニケーションを行う目的，場面，状況を明確にする。

支　　援　教師と子供が単元の目標やコミュニケーションの目的，場面，状況を明確に共有できるよう支援する。

【課題追究】

子供の姿　単元のゴールにむけて学習計画を立て，言語活動においてはコミュニケーションを行う目的，場面，状況に応じたペア，グループ，全体などの活動形態を選択して，課題追究する。

支　　援　教師の支援を受けながら学習計画を立てられるようにし，ペア，グループ，全体などの活動形態を選択できるよう支援する。

【パフォーマンス】

子供の姿　コミュニケーションを行う目的，場面，状況に応じて，事実や自分の考え等を整理し，既習の語句，表現等から整理した内容に合うものを選択して使い，他者に配慮しながら伝え合うことができる。

支　　援　他者に配慮しながら，事実や自分の考えを既習の語句，表現等を活用して表すことができるようにし，子供が学習の成果や課題，その後の学びの可能性等を実感できるよう支援する。

これまでの研究を通して，子供が自己をメタ認知する支援によって，子供たちが高いモチベーションを維持し，活動を調整したり目的に応じて選択したりして，主体的に学び続けることが明らかになりました。今年度は，子供が単元のゴールに向かって，これまでに学習した語句・表現をつかって表現することと，相手を意識した伝え方にむけて目標をたて振り返りを行い，自らの学習を調整していく「自己調整」に整理・焦点化して，研究を進めてきました。

外国語科　研究実践における子供の「自己調整」

詳しくは実践指導案へ

外国語科の研究実践「Let’s go to Italy」では，子供の「自己調整」の姿を下記のように構想し，授業実践に取り組みました。

	外国への思い	学習方法や取組方	自分自身への気付き
研究実践における自己調整の姿	おすすめの国について 自分が行ってみたい国や地域についての魅力や特長を確認し，共有する。	紹介に向けて 自分が行ってみたい国や地域についての魅力や特長について調べ，これまで習った語句・表現を使って紹介することができるように表現や伝え方を追究する。	思いや考えの変化，自分への気付き おすすめの国についての表現や伝え方を振り返り，目標をたて次に生かそうとする。
	・こんな国や地域に行ってみたい！ ・こんな魅力や特長があるんだ。 ・他にどんな良さがあるのかな？	・この国のこんな所も行ってみたいと思ったよ！ ・他に見所がないかな？ ・○○さんの言い方を参考にして紹介したい！	・友達のおすすめの国や地域について良さがよくわかった！ ・もう少し相手にわかるように伝えるためには，こんな表現を入れたいな。

研究実践においては，「自らの学習を調整する」ために，ルーブリックによる振り返りが効果的であることがわかってきています。森，相川　(2020) では，メタ認知的方略の使用を促進するための適切なトレーニングが必要となるとしています。そのためにも，何をどんな基準で振り返ったらよいのか振り返りの仕方を具体的に指導するということが必要になります（図1）。

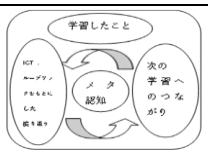

図1メタ認知を促す学習のつながり

外国語科「Let’ s go to Italy」研究実践について

単元の目標を教師と子供が共有できるよう，単元のゴールにつながる言語活動の動画（デジタル教材等）を視聴する場を設け，話題や使われている語句，表現等を理解可能な範囲で押さえるよう促しました。コミュニケーションの目的，場面，状況（誰と，どのような語句，表現を使って，何について伝え合うかなど）を共有する場を設け，単元のゴールにむけての学習計画をたてました（図２）。

他者と伝え合う様子を相互に見合い，タブレット端末で動画に記録したりするよう促し，客観的に自分たちの学習の成果と課題をとらえることができるようにしました（図３）。また，学習活動の中で教師が子供を見取りながら，支援の必要な児童に英語表現を一緒に発音したり，めあてを確認したり等の支援を行い，学習の成果が見られた児童について教師からの価値づけを行ったりしたことで，主体的な学びを促すことができました（図４）。

図2 コミュニケーションの場面提示

図３　グループごとに練習している

会話を動画で録画している様子

図４　個別に教師が支援している様子

子供の姿から

第５，６時では，「グループでわかりやすく紹介できるように」という視点で，相手にわかりやすい表現や伝え方を考えて練習をしていく学習を行いました。授業ごとに振り返りカードを用いて，児童が目標を設定し，学習を自己評価することを継続していきました（図５）。

初めは，おすすめする国について，紙を見ながら紹介をしていた子や，おすすめの国の良さを１つの文だけ言うことで終わっていた子もいました。ペアやグループで練習していく中で，子どもたち同士でアドバイスしながら，おすすめの国のよさを２文の表現に増やしたり，伝え方がよくなるように練習をしたりすることができました(図６)。また，振り返りカードや動画からの見取りから，つまずきの見られた児童に対して教師が個別に支援することができました。授業ごとに目標をたて，自分の学習の振り返りを行うことで，成果と課題がはっきりとしました。そこから，単元のゴールに向けて自己調整を図りながら学びをつくることができました。

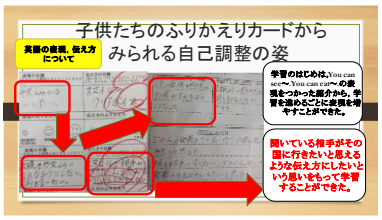

図5 授業ごとに児童が目標を設定し，

学習を自己評価していった振り返りカード

図6 ペアでの会話練習の様子

研究から見えたこと

この３年間，外国語科では「子供が学びをつくる」ために，場の設定や活動の保障とともに，教師と子供が目指す姿をその都度共有し，学習計画を立てていくことを大切にしました。また，自分の学びを振り返り，次への目標を立てながら学ぶことで自分自身の学習を調整し，ゴールに近付くように学びをつくることができました。「子供が学びをつくる」ためには，子供自身が単元のゴールにむけて，自分の思いをもち，相手に伝えたいという思いが原動力となります。一方的な表現ではなく，相手の思いを聞くことや，相手にわかるような伝え方を意識していくためには，教師や友達との関わりの中から学んでいく必要があると考えます。ペアやグループ，全体などの他者との関わりを生かしながら，さらに「わかりやすくするための表現や伝え方」というように自ら学びをつくっていくのです。

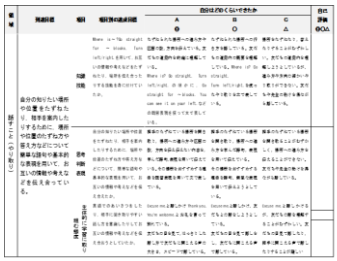

図7　unit3のルーブリック

子供たちが自分の思いを伝え合い，教師と子供と学習目標を共有しながら学びをつくっていくことができましたが，引き続き，実際に指導と評価を行いながら，子供たちの学びの成果や課題を照らしあわせ，ルーブリックの内容を吟味していく必要があると考えます（図７）。そして，子供一人一人がつくる学び，子供たち全員でつくる学びの充実を今後一層大切にしていきたいです。